

## 日独共同創造演劇プロジェクト

# 「四谷怪談」プレトークのお知らせ

8月19日(金)開催の「四谷怪談」に関して、ドイツ語圏の演劇・オペラ界を代表する演出家 ヨッシ・ヴィーラーを招いてお話しを伺います。

いま、高い芸術性で評価されるドイツ演劇の状況や、今回の日本とドイツの演劇人による共同創作についてなど、触れる機会の少ない興味深い内容にご期待下さい。

**日 時** 2005年8月8日(月) 19:00～

**会 場** 山口情報芸術センター ホワイエ (山口市中園町7-7 TEL.083-901-2222)

**料 金** 入場無料

### \*ヨッシ・ヴィーラー(Jossi Wieler)

1951年スイス生まれ。イスラエルの大学で演劇を学んだ後、1980年よりドイツやスイスの劇場で活動。1994年、オーストリアの現代劇作家フリーデ・イエリネックの『雲、家』をハンブルグ劇場で演出し、演劇誌による“同年最優秀作品”に選出される。1990年代半ばよりオペラの演出も開始。シュトゥットガルト歌劇場で『アルジェのイタリア女』『アルチーナ』『ポッペアの戴冠』『ジークフリート』『ドン・カルロ』『ノルマ』他多数の演出を行う。2001年、ザルツブルク音楽祭に『ナクスス島のアリアドネ』が招かれ、オペラ誌による“同年最優秀オペラ作品”に選ばれる。ヴィーラーとドラマトゥルグのセルジオ・モラビートのコンビは、その後“2002年最優秀演出チーム”に選出され、2003年にはハノーファー歌劇場で『ペレアスとメリザンド』(舞台美術・衣裳=渡邊和子)を演出し、大成功を収める。

2002年9月、ベルリン芸術アカデミーよりコンラート・ヴォルフ賞を授与される。

## ■日独共同創造演劇プロジェクト「四谷怪談」■

原作：鶴屋南北 演出：ヨッシ・ヴィーラー 美術・衣裳：渡邊和子

日時：8月19日(金) 19:00開演 (18:30開場)

会場：山口情報芸術センター スタジオA

料金：A席一般4,000円、any会員/特別割引3,000円、B席2,000円(学生対象)

「日本におけるドイツ年」の今年、江戸文化爛熟期の歌舞伎作者・鶴屋南北のこの作品をドイツ語圏の演劇・オペラ界を代表する演出家ヨッシ・ヴィーラーが現代劇化。時代の転換期である当時の社会と<いまの日本>を重ね合わせ、モラルの荒廃や物欲による墮落、生存競争のなか喪失感に打ちのめされて生きる人々の姿を現実・夢・記憶・妄想の交錯する白昼夢のように描き出します。出演は、劇団民藝の「アンネの日記」で舞台デビュー以来幅広く活躍し、最近では日欧で公演を続ける一人芝居「MITSUKO」が13年目を迎える吉行和子、1970年から演出家ピーター・ブルックのもと世界的に活動し日本語の舞台は37年ぶりとなるヨシ筈田を始め、舞台・映画・テレビ等で活躍する実力派が結集。また、美術・衣裳をベルリンの地下鉄ホームで村上春樹の小説「アンダーグラウンド」を舞台化、上演し、話題となった渡邊和子が担当します。日本とドイツの共同製作となるこの作品は、日本では東京と山口のみで公演され、その後12月にベルリン芸術祭、来年にはヨーロッパ各地で公演されます。